

■ 日本IDDMネットワークへのご寄付・サポートのお願い

日本IDDMネットワークは、全国の1型糖尿病を中心としたインスリン治療が必要な患者やその家族の支援団体です。“不治の病”と言われる1型糖尿病を“治る病”にすることを最初のゴールとし、研究助成や患者・家族への支援などに取り組んでいます。この病とともに生きる子どもたちが将来の希望を持つことができるよう、あたたかいご支援をお願いいたします。

🌸 1型糖尿病研究基金▷▷

医学・医療の現場では1型糖尿病に関する研究が日々進められており、近い将来その根治実現が期待されています。こうした1型糖尿病の根治をはじめ、治療・予防に向けた研究を支援するためのご寄付を広くお願いしています。



▽お振込みによるご寄付はこちら

・ゆうちょ銀行(郵便局)

口座名義: 特定非営利活動法人
日本IDDMネットワーク
アイディーディーエム
口座番号: 01710-9-39683

・みずほ銀行佐賀支店 普通預金

口座名義: 特定非営利活動法人
日本IDDMネットワーク
アイディーディーエム
口座番号: 1629393



🌸 ふるさと納税▷▷▷▷

日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただくことで、返礼品も選択でき、一定限度額までは実質負担ゼロでご支援いただくことができます。



ふるさとチョイス動画「佐賀県・子供たちを注射から解放する挑戦」▲

🌸 遺産のご寄付▷▷▷▷

～金額にかかわらず

ご支援ください～

遺言により、財産の一部、または全額のご寄付をお願いしています。

100万円以上のご寄付をいただけると、冠基金として基金にご自身のお名前等をつけ、生きた証とご自身の想いを後世に残していただくこともできます。



🌸 其他のご支援方法▷

不用品のご寄付などさまざまなご支援方法をご紹介します。詳しくはウェブサイトをご覧ください。



※当法人は運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものとして、所轄庁(佐賀県)より「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」に認定されております。当法人にご寄付いただく場合、寄付者の方々は税制優遇措置を受けることができます。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

税制優遇措置について▷▷▷



〈制作〉



「治らない」から「治る」へ
認定特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク

〒840-0823 佐賀県佐賀市柳町4-13
TEL 0952-20-2062 FAX 020-4664-1804



info@japan-iddm.net



https://japan-iddm.net/

日本IDDMネットワーク



1型糖尿病患者・家族 とともに歩む 祖父母向けパンフレット



「治らない」から「治る」へ
認定特定非営利活動法人

日本IDDMネットワーク

■ 1型糖尿病とは

1型糖尿病は、主に自己免疫によっておこる病気です。自分の体のリンパ球があやまって内乱を起こし、自分自身のインスリン工場、膵臓にある膵島β細胞の大部分を破壊してしまうことで発病します。

感染症ではありませんので、1型糖尿病が他人にうつることはなく、また生活習慣病や先天性の病気とも異なりますので、発病は本人のせいでも親のせいでもありません。日本での発症率は10万人当たり1.5～2.5人とされています。

毎日のインスリンの補充により血糖値を良好に保てば、食事や運動の制限もなく、通常と変わらない生活を送ることができます。

■ 1型糖尿病の治療法

1型糖尿病の治療には毎日のインスリン補充が不可欠です。血糖値を測定し、生活に合わせてインスリン量を調整することで、血糖コントロールを良好に保つことができます。

そのため、食事や就寝の前などに必要に応じて専用の機器を使った血糖測定を行い、一日に4～5回ほど注射やポンプによるインスリン補充を行います。



血糖コントロールをきちんと行うことで、進学、就職、結婚、出産など、人生のさまざまな節目を乗り越えることができます。

祖父母のみなさまをはじめ周囲の方々からの適切な理解を得ること、患者本人である子どもとそれを支える親が精神的なストレスを抱えず健やかな日常生活を送ることが何よりも大切です。

■ 子どもが病気を告げられたときのお母さんの気持ち

我が子が「1型糖尿病」と告げられたそのとき、親としての想いや受け止め方はさまざまです。しかし多くのお母さんたちは、「子どもを病気にしてしまった」という後悔や罪悪感を抱き、状況を受け止めきれないまま自分を責め、途方に暮れる日々を送っています。

誰よりも子どものことを考え、目の前の現実と向き合うお母さんたちの気持ちを理解し、どうかそっと見守ってあげてください。

<Kさん>

病気と診断されたその日に入院し、毎晩「お母さん、これはみんな夢やんなあ、明日になったら違うよなあ」と話しながら眠る息子を見て、「ごめんね」と謝ることしかできませんでした。

泣き言を言わない男の子だったから、症状が出始めたころはきっとしんどのいを我慢していたのだと思います。もっと早く病気に気づいてあげたかった、それが一番の気持ちです。

<Oさん>

たくさん水を飲みたがっていたことを怒った自分への後悔の念が、あとからあとから湧いてきて、「(病気になったのが)どうして私じゃなくてこの子なんだろう」「代わるものなら本当に代わってあげたい」と心から思いました。



■ おじいちゃん おばあちゃんにお願いしたいこと

1 「かわいそう」と言わないで

「かわいそう」と思われる気持ちは当然かもしれませんが、その言葉は子どもにとっても親にとってもショックを与えかねません。注射などの治療やその意義を知り、そっと寄り添いながらこれまで通り接してください。

2 「どうしてこの子が」と思わないで

「どうして」という想いは誰よりも子ども本人、そして親が一番に感じていることであり、自分自身が責められているように感じてしまいます。責任という荷物を背負わせるのではなく(誰のせいでもありません)、現実と向き合う姿を応援してください。

3 「誰かのせい」「何かのせい」を探そうとしないで

1型糖尿病は生活習慣病でも先天性の病気でもなく、その原因はまだ究明されていません。病気の原因を見つけようとするのではなく、これからできることをぜひ一緒に探してください。

4 どんな言葉も前向きに受け止められない時期があることを理解して

子どもや親を元気づけようとしてかけた言葉も、本人は素直に捉えられず、勘ぐったり傷ついたりしてしまうことがあります。本人たちの気持ちの整理がつくまで、時にはぐっと言葉を飲み込むことも、実は温かい支えになるのです。

5 自立しようとする子どもや親の芽を摘まないで

子どもや親は、時間をかけて病気と向き合い、自立しようと一歩ずつ歩みを進めています。病気だからと将来を悲観したり、行動を制限することなく、適切な距離感で成長を見守ってください。

少しずつ経験と自信を積み重ねることで、子どもも親もともに病気との向き合い方を学んでいきます。時間はかかるかもしれませんが、つかず離れず今を温かく見守り、困っているとき、SOSが来たときには、そっと声を掛けてみてください。必要なときには、優しく手を差し伸べてください。

■ 先輩祖父母からのメッセージ

まずは、病気になったことを告げてくれたことに「ありがとう」ですね。「これからも力になるから、一人で悩まないで、今は大変だろうけど、きっと笑って暮らせる日がくるからね」とそっと肩を抱き、心の支えになってください。

